

平成 29 年度日本化学会賞候補者推薦方法について

公益社団法人 日本化学会

1. 賞の対象

賞の対象は、表彰規程および学会賞選考委員会規則により、次の通り定められている。

- (1) 学会賞は、本会会員であって化学の基礎または応用に関する貴重な研究をなし、その業績がとくに優秀な者に授与する。
- (2) 学会賞は、すでに他の賞を受けた者も授賞の対象とする。なお、学術賞受賞者で、学術賞受賞後さらに顕著な業績を挙げた場合には、その部分について学会賞の授賞対象とする。

2. 提出書類〔返却しない〕

- (1) 支部長あて候補者推薦書（別紙用紙を使用）
- (2) 会長あて候補者推薦書（別紙用紙を使用）
- (3) 候補者調書
 - 1) 研究歴（別紙用紙を使用）
 - 2) 業績内容の説明（別紙用紙を使用）：別紙「候補者調書様式の作成に当たって」を参考として、同形式にてA4判の用紙で作成して下さい。候補者の業績内容を反応式、構造式、図・表を含めて具体的かつ簡潔に（参考文献を別として用紙5枚以内（6,000字程度）にまとめる。ただし、引用文献がある場合は本文に含めて5枚以内とする。
 - 3) 業績リスト（別紙用紙を使用）：論文、著書、総説、特許などのリスト（論文などの別刷は必要に応じ候補者に直接請求する。）
 - 4) その他（別紙用紙を使用）
 - 5) 論文または総説の別刷5編（各5部、5組セットにする。）
 - 6) 特許については、実用化実績があれば記載すること。
- (4) なお、候補者が学術賞受賞者である場合は、学術賞での評価対象との区分について、業績内容の説明に明確に記すこと。また業績リストも区分すること。

3. 業績説明

選考委員会における業績説明は、原則として行わない。ただし、選考委員会の判断により、候補者本人からヒアリングを行うことがある。なお、ヒアリングのための旅費、交通費については、本会は負担しない。

4. 書類執筆上の注意

- (1) 清書は、ワープロ印書とすること。（40字×40行）とすること。
- (2) 年号は全て西暦で統一すること。
- (3) 会長あて候補者推薦書の推薦支部、支部長の欄は、推薦書作成者（または候補者）が記入すること。 *本年度の各支部長名は次頁に記載。
- (4) 候補者氏名、勤務先と職名欄は日本語と英語を記載すること。
(記入例)

候補者氏名	(ふりがな) かがく たろう (日本語) 化学 太郎 (英語) Taro KAGAKU	会員番号	
		生年月日	西暦 年 月 日
勤務先と職名	(日本語) 東京大学大学院理学系研究科化学専攻：教授 (英語) Department of Chemistry, Graduate School of Science, The University of Tokyo : Professor		

- (5) 業績リストは、次の項目別に、下記例のとおり記載する。(①主要な原著論文10編以内 ②全原著論文 ③著書 ④総説・特許・その他 ⑤国際会議での招待講演) ただ

し、論文の中に印刷中(in press)の査読論文(審査のある論文)は加えることができるが、投稿中(submitted)の場合は記載できない。

- (6) 業績リスト中、共著論文に関しては、候補者が総括研究者、または研究担当者である場合は〔主〕を、研究協力者である場合は〔協〕をその論文の末尾に付ける。

〔例〕(35) Molecular-Sieve Type Sorption on Alkali Graphites, M.Wada, S.Suzuki, T.Tanaka, Bull.Chem.Soc.Jpn., 43, 2656 (1983)〔協〕

- (7) 支部へ提出の際には「支部長宛の推薦書」を添付し、「会長宛候補者推薦書」を1頁目とし、「研究歴」、「業績内容の説明」、「業績リスト」、「その他」の順に用紙下部中央に通し頁を記入すること。

5. 推薦書提出先および提出締切日

候補者が所属する支部の事務局へ提出する。

締切日は各支部によって多少異なるので支部事務局に確認すること。

6. 平成29年度選考委員会開催日

- | | |
|----------------------|----------------|
| (1) 第1次選考〔郵便による書類審査〕 | 平成29年9月中旬 |
| (2) 第2次選考委員会 | 平成29年10月中旬 |
| (3) 第3次選考委員会(最終選考) | 平成29年11月21日(火) |

*平成29年度日本化学会各支部長(敬称略)

- ・北海道支部長 及川 英秋
- ・東北支部長 正田晋一郎
- ・関東支部長 小柳津研一
- ・東海支部長 古賀 伸明
- ・近畿支部長 桑畑 進
- ・中国四国支部長 江幡 孝之
- ・九州支部長 柘植 顕彦

☆学会賞受賞者は、受賞した業績を本会論文誌 Bull. Chem. Soc. Japan, Accounts と The Chemical Record のうち少なくともいずれか一方に投稿しなければならない。

本会では、候補者推薦書の内容及び委員会での審議内容に関し、秘密を保持いたします。

なお、受賞者の方は受賞が決定するまで、公表を控えていただけますようお願いいたします。

日本化学会賞

候補者調書の作成に当たって

1. 適当な A4 判用紙に作成のこと。
2. 用紙の余白は左右約 2.5 cm とること。
3. タイトルを除いて 10 ポから 12 ポ程度の活字とすること。
4. 原稿は横書きとし、1 ページの行数は(40 字×40 行)程度とすること。
5. 「業績内容の説明」は、参考文献を別として用紙 5 枚以内 (6,000 字程度) にまとめること。ただし、引用文献がある場合は本文に含めて 5 枚以内とする。
6. 年号は全て西暦で統一すること。
7. 支部へ提出の際には「支部長宛の推薦書」を添付し、「会長宛候補者推薦書」を 1 頁目とし、以下「研究歴」「業績内容の説明」「業績リスト」「その他」の順とし、用紙下部中央に通し頁を記入すること。

推 薦 書

年 月 日

日本化学会
支 部 長 殿

支 部

学 会 賞
学 術 賞
下記の者を 進 歩 賞 受賞候補者として推薦します。
女性化学者奨励賞 (該当を○で囲んで下さい。)
化学教育賞
化学教育有功賞

候補者氏名 (勤務先)	()
----------------	-----

推薦者氏名 (勤務先)	印 ()
----------------	----------

推薦者連絡先	(所在地) 〒 Tel. FAX. E-mail
--------	---

注) 推薦書は毎年更新していますので、平成 29 年度のものを使用してください。

整理
番号

平成 29 年度 学 会 賞 候 補 者 推 薦 書

年 月 日

日 本 化 学 会 会 長 殿

_____ 支部

支部長 _____

下記の者を学会賞候補者として推薦します。

候 補 者 氏 名	(ふりがな) (日本語) (英 語)	会員番号	
		生年月日	西暦 年 月 日
勤 務 先 と 職 名	(日本語) (英 語)		
勤 務 先 所 在 地	〒 Tel. FAX. E-mail		
最 終 学 歴		学 位	
現 住 所 (自 宅)	〒 Tel. FAX. E-mail		
連 絡 先	勤務先 ・ 自 宅 (どちらかに○印を付けて下さい)		
研 究 題 目	(和文)		
	(英文)		
過 去 に お け る 受 賞 歴			
<p>★過去 3 年以内に本会誌または The Chemical Record に論文を発表していますか： はい ・ いいえ (どちらかに○印を付けて下さい)</p> <p>★受賞者は、受賞内容を B.C.S.J.,Accounts 又は The Chemical Record に投稿の義務があります。</p>			

(注) 以下、年号は全て西暦で統一して下さい。

研究歴 (職歴を含む)

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。

業績内容の説明

研究業績の概要。業績内容に密接に関連した論文・総説などから5編の別刷を各5部と詳しい業績説明。学術賞を受賞している場合は、学術賞での評価対象との区分について明確に記すこと。

[参考文献を別として、図表を含めて全部で用紙5枚以内(6,000字程度)にまとめて下さい。10～12ポ程度の活字を使用すること] ただし、引用文献がある場合は本文に含めて5枚以内とします。

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。

業績リスト

以下の項目別にご記入下さい。

- 1 主要な原著論文10編以内（被引用回数は付記しないで下さい。また、学術賞受賞対象の論文は入れないで下さい。）
- 2 全原著論文
- 3 著書
- 4 総説・特許・その他
- 5 国際会議での招待講演

注：学術賞を受賞している場合は、学術賞での評価対象と明確に区分すること。

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。

その他

学会賞にふさわしい業績と思われるその他の資料を自由形式で添付して下さい。

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。